

婚の意味を問う』パートⅡ 現代社会における結婚の意味を問う」と題されたシンポジウムが行われた。学問分野の性格上、人口に関連する報告は多かったが、日本人口学会会員によるものとしてはテーマセッションを含むそれぞれ別のセッションで以下の5報告があり、シンポジウムでは落合恵美子会員が「歴史的に見た日本の結婚」と題する報告を行った。

日本と韓国のシルバー人材活用—派遣事業から創業支援まで— 山地久美子（神戸大学大学院）  
シンガポールにおける出生・家族政策と出生力の関係 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）  
「直系家族制から夫婦家族制へ」は本当か（テーマセッション A、

戦後日本の家族変動—「戦後日本の家族の歩み」調査から— 加藤彰彦（帝京大学）  
社会的ネットワークの構造と力—育児におけるネットワークのサポート効果

松田茂樹（第一生命経済研究所）  
現代女性の離家規定要因—『消費生活に関するパネルデータ』を用いた分析—

福田節也（明治大学大学院）

なお、2004年大会は清水浩昭会員により9月11日（土）～12日（日）に日本大学文理学部で開催される予定である。

（小島 宏記）

## 環境科学会2003年会

社団法人環境科学会2003年会は、2003年9月11日（木）・12日（金）、東京大学駒場キャンパスにおいて開催され、一般講演、シンポジウム、ポスターセッションが行われた。

一般講演のうち人口学的観点から特に興味深いものとしては次の3つがあげられる（発表順、○印は発表者）。

「化学工業原料およびエネルギー資源としてのバイオマスの供給可能性のモデル分析」

○棟居洋介（東京工業大学大学院）

「GISおよびデータマイニングを用いた呼吸器系疾患の環境リスク要因解明に関する研究」

○安納住子（芝浦工業大学）

「国際交易と土地利用変化」

○松村寛一郎（関西学院大学）・Guoxin TAN・柴崎亮介

棟居氏、松村氏の発表は、それぞれバイオマス、食料についての分析であり、いずれも将来の人口をシナリオとする世界モデルを用いたものであったが、後者では都市人口のシナリオにも注意が払われていた。安納氏は、研究対象地域（東京都心）をセルで分割することによって、呼吸器系疾患の患者の空間的な分布をデータ化し、環境要因との関係を探っていた。

また、これらの一般講演のそれぞれについて質疑応答が行われた。（今井博之記）

## アジア HIV 流行モデルを用いた政策分析ワークショップ

タイ国保健省、米国東西センター、家族保健インターナショナル（FHI）によって開催された「ア